

広報

ただみ

12
2016 月号
No. 559
平成28年12月10日

こころを一つに全員合唱

只見町小中学校 高 祭



今月の表紙

今月の表紙は11月9日に只見中学校体育館で開催された第54回只見町小中学校音楽祭の全員合唱の様子です。3地区の小学生、只見中学生、会場に訪れた保護者の方々や地域住民の皆さんによる全員合唱は、心一つに「ビリーブ」を歌いあげました。全員の歌声は体育館中に響きわたり、一体感と感動が生まれました。【関連記事 10ページ】

<特集>

- 「ふるさと館田子倉」開館…………… 2～3
- 第46回只見町文化祭…………… 4～5
- 目黒町長退任の挨拶…………… 6
- 上半期財政状況のお知らせ…………… 7

<<News&flash>>

新町長当選証書付与式 ほか…… 8～11

<<町の話題>>

3地区保育所お遊戯会 ほか…… 12～13

田子倉集落を次世代に伝える



▲11月2日の式典で撮影した開館記念写真

「ふるさと館 田子倉」開館

電源開発によるダム建設で湖底に沈んだ田子倉集落に関する資料などを展示した「ふるさと館 田子倉」が11月3日、只見駅前通りに開館しました。

今回、この「ふるさと館 田子倉」について、どのような施設で何の目的に作られたのかご紹介致します。

「開館への歩み」

「ふるさと館 田子倉」は、田子倉集落出身の（故）皆川弥さんが平成16年に、田子倉集落の歴史や生活・文化を後世に伝える資料館として、私設開館されました。しかし開館してから数年後、皆川さんの体調不良などにより、常時開館が叶わない状況となっていました。

一方町では、日本の高度経済成長を支えた田子倉ダムの建設により、50戸が移住を迫られ消失した「田子倉集落」について、後世に伝える為の方法を検討しており、皆川さんと町の恩恵が合致し、平成25年から「ふるさと館 田子倉」の在り方について両者で話し合いが進められてきました。しかし残念ながら、計画半ばで皆川さんが病気で亡くなられ、その後、町が皆川さんの意思と事業を引き継ぎ、平成27年に「ふるさと館 田子倉」を取得し、併せて田子倉集落関連の資料を皆川さんのご遺族から町へ寄贈して頂きました。そして平成28年に建物の整備を行い、今回開館の運びとなりました。

◆観覧料(消費税は内税です)

区分	観覧料(一人あたり)	
	個人	団体
高校生以上	300円	250円
小・中学生	200円	150円

※1 団体は20名以上から。
※2 未就学児童は無料

◆観覧券

交付された観覧券は、当日・翌日に限り「ただみ・ブナと川ミュージアム」でも観覧可能です。

◆会議室のご利用について

会議室(和室・洋室)の利用は、施設利用申請書での予約が必要となりますのでお問い合わせ下さい。※町民の利用は無料です。



▲田子倉ダム建設当時の資料映像が見られる1階ラウンジコーナー



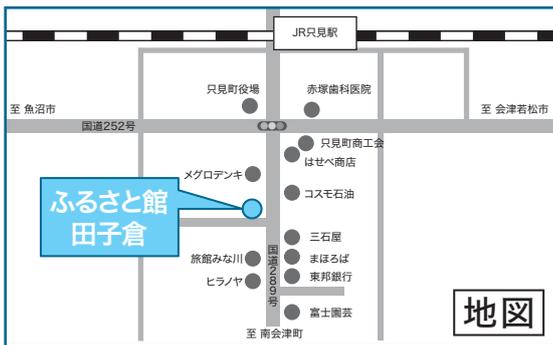
▲1階展示室には、皆川さんなどが集落の住民から集めたクマ猟や漁ろうで使った道具や当時の住民の姿を収めた写真など、200点以上の貴重な資料が展示・保管されています



▲申請により使用できる2階会議室



◀施設内では、只見町の原材料や伝統的な技術を使ってつくられた「自然首都・只見」伝承産品も販売しています



「ふるさと館田子倉」

- ◆営業時間/午前9時～午後5時(最終受付午後4時)
- ◆休館日/火、土、日、祝日、年末年始
- ◆電話番号/0241-72-8466

―設置の目的―

只見町や日本の社会経済の発展に貢献してきた田子倉集落を広く次世代に伝えるとともに、只見ユネスコエコパーク「自然と人の共生」を理念とした地域づくりを支援していきます。

―施設の見どころ―

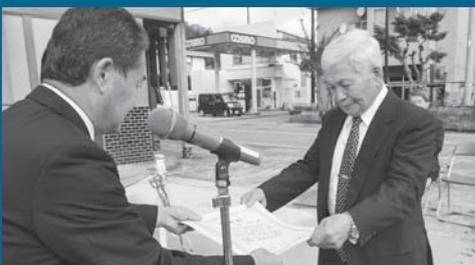
「ふるさと館田子倉」は、「ただみ・ブナと川のミュージアム」の姉妹施設として只見町ブナセンターが運営しています。施設内では、田子倉集落に関する資料を展示・保管している他に、田子倉ダム建設に関する当時の資料映像や、利用者の交流の場として談話室・会議室などが設けられています。また、只見ユネスコエコパーク推進協議会の事務局も設置され、ユネスコエコパークに関する展示・情報発信も行われています。

―開館記念式典―

で感謝状―

11月2日、「ふるさと館田子倉」の開館を記念した式典が行われ、関係者など約30名が参加しました。

式典で目黒町長は「皆川弥氏から引き継いだ事業を、広く次世代へ伝えていきたい」と挨拶し、たぐら会総代の山岸秀弥さんが祝辞を述べられ、田子倉集落関連資料を町へ寄贈した皆川竜弥さんへ、感謝状が贈呈されました。



▲目黒町長(左)から感謝状を受けとる遺族代表代理の鈴木稔さん(右)

第46回 只見町文化祭

自然首都・只見
只見町文化祭
受け継がれる遺産～

只見町文化祭

「只見の再発見」～受け継がれる遺産～

第46回町文化祭は、11月3日に町民体育館と只見振興センターを会場に開催され、雨の中約1,500名が来場しました。

今年「只見の再発見」受け継がれる遺産」というテーマが掲げられ、メインコーナーには町内で発見された南北朝時代の歴史書「神皇正統記」の写本が、初めて一般公開されました。来場者はその写本について、担当者から熱心に説明を聞き、併せて町内寺社仏閣調査の発表も見学していました。また、東洋大学の久野俊彦先生による「黒谷の村医者原田家と天正十五年神皇正統記」の歴史書講

演会が行われ、多くの方が只見の遺産について学んできました。

メインコーナー以外では、町内の保育所から大人までの絵画・書・写真などの作品が展示された芸術コーナーや、俳句作り、つる細工体験、妊婦・高齢者体験、ゼンマイ綿ストラップ作り体験など様々な種類の体験コーナーが設けられ、大人から子どもまで多くの方が体験していました。

そして今年は、日本大学工学部(郡山市)の皆さんによる只見町の町づくりの研究で、只見らしい景観調査が行われました。調査では、大学生が撮



▲初公開された「神皇正統記」の写本



▲(写真/開会式)雨の中ピロティで力強い鼓笛を披露した朝日小学校鼓笛隊の皆さん

▼私の自慢のごはんコンテスト受賞者の皆さん



▼手芸コーナーでは、ミニバックやキーホルダー作り体験ができました





▲只見線をイメージしたジオラマなど子どもから大人まで人気だった只見線応援コーナー



▲福島国体で使用した楽器(サクソ・トランペット)を20年ぶりに修理して演奏が行われた、小・中・高校生5名によるミニプラスバンドコンサート。フルバンドを目指し、その途中成果が発表されました。



▲野球教室で子ども達の指導にあたった早坂貴光さん(右)



▲朝日小学校2年生による昔語りを披露した民話茶屋



影した108枚の只見らしい風景写真の中から、来場者に数枚選んでいただき、「只見らしさ」を調べていました。今回の調査は、中心市街地活性化事業の景観デザインに活かされていきます。

別会場の只見小学校体育館では、宮城県東北高校で甲子園に出場され、現在は指導者として活躍されている早坂貴光さんと福田正文さんによる野球教室が開かれ、町内の小・中学生14名が参加し、生徒達の筋力レベルに合わせた体の



▲人材育成第7期生による「介護体験」で、こぶし苑の馬場さんから介護指導を受ける参加者の皆さん

▲只見らしい景観の調査を行った日本大学工学部の皆さん

使い方や、バッティング指導などが行われました。

他にも、只見高校のPRコーナーや民芸品コーナー、チャレンジコーナーなど多くの催しが行われ、訪れた方々は町の文化や歴史、芸術にふれることで、メインテーマ「只見の再発見」を感じていくようでした。

また今回、交流35周年を迎えた千葉県柏市永楽台地域ふるさと協議会の皆さんが会場を訪れ、只見町と柏市の交流が図られていました。

只見町文化協会 第21回芸能発表会

11月13日、只見町文化祭事業の一環で「第21回芸能発表会」(只見町文化協会主催)が、季の郷湯ら里で開かれました。出演団体は、宝生流只見謡曲研究会松楓会、コーラスはなみずき、瞳の会、只見音楽研究会、はぎの会、只見民謡会、只見つくし会、蒲生花輪踊り保存会、天領只見仙嶽太鼓保存会の皆さんで、美しい歌声や華やかな舞踊、迫力のある演奏などが披露され、訪れた方々を魅了していました。



町長退任の挨拶



目黒 吉久氏
平成20年12月16日から
2期8年町長を務めました

る大変な時代でした。災害復旧に多くの労力と時間を費やさなければならぬ状況において、少しでも未来に向けた町政運営に当たることができましたのも、町民各位のご理解とご協力、寛大な心の賜物と感謝いたします。

12月15日、町長の任期が満了となります。退任するにあたり2期8年、町民の皆様には多大なご支援を頂きましたことに改めて感謝申し上げます。顧みますと瞬間に時は過ぎ去り、たくさんの出来事がありました。世界的な経済・金融危機、テロの拡散や紛争の多発、異常気象と巨大な自然災害、国内では長く経済不況や政界の混乱と政権交代、東日本大震災と福島を汚した原発事故、そして只見では未曾有の災害となつた新潟・福島豪雨、その後も毎年のように災害が引き起こ

私は町政50周年という節目の年に町長に就任いたしました。50周年を共に祝ひ、この間培われた大切な本町の歴史や文化を引き継ぎ、更なる飛躍をお互いに誓い合うところからスタートしました。当初私は「農業」の基盤を確立し、その土台の上に「商・工・観光」業の基幹産業の柱を立て、更にその上に連携した「人」の屋根をかけるというものでした。高齢化と米価の低迷する中、水田農業が一番悩ましい課題ですが、それでもイターンを含めた元気な農業者が育ち、農産加

工にも挑戦がみられます。観光まちづくり協会も一般社団法人となり、旅行業も含め農家民泊などに力を入れ、奥会津の観光・誘客の中核として活躍してくれています。教育分野においては「自然首都・只見」に相応しい人づくりを目指し、地域人材育成事業や只見学の推進を図ってきました。小・中学校の教育環境の充実はもとより、只見高校の振興に向けて山村教育留学制度に力を入れ、現在学生寮の増設中です。保健・医療・福祉が一体となった町づくりにも力を入れてきました。診療所に常駐医師がいない経験をした町にとつて診療所医師の安定した体制を堅持しながら、地域包括ケアの構築を目指し、高齢者グループホームの設置支援や小規模特養あさくさホームの整備を図りました。雪国の生活対策として屋

根の克雪対策事業や除雪支援保険事業の充実を図り、除雪機導入の支援を進めてきました。集落対策としては交付金制度を設けましたが、区民及び活動団体となお一層の情報連携が必要であります。町にとつての大きな転機は新潟・福島豪雨でした。復興に向けて「1. 将来にわたる安全・安心な地域づくり」、「2. 活力ある社会経済の再生」を基本理念に掲げました。その実現のために「自然首都・只見」ブランド確立の検討委員会を立ち上げました。その結果、「ユネスコエコパーク」の登録を目指すことになり、多くの方々のご指導と支援を受けながら、平成26年6月にその努力が実りました。世界の評価を受けたことは町の誇りであり大変うれしいことです。10年間の行動計画も策定されその基本理念は第7次振興計

面に反映されました。着実にあせらず、絶ゆまず、諦めず取り組んで行くことです。また、心残りは豪雨災害時の町の対応について、被災された町民の方達と町との間に係争を残してしまったこと、そして役場庁舎建設も長い時間と多額の費用をかけながら完成をみなかつたことは、町長として慚愧に堪えません。八十里越の開通も目前に迫りつつあり、只見線の全線復旧も必ず実現するものと思えます。

只見は今、地勢学的に立ち位置が変わろうとしていますが、この期に新町長になられる菅家三雄氏の力が充分に発揮できますように町民の皆様におかれましては町の将来のためにご協力をお願いいたします。菅家町政のもとに町の更なる飛躍を期待し退任の挨拶とさせていただきます。

待し退任の挨拶とさせていただきます。



町の財政事情がどのような状況にあるのかを理解していただくために、平成28年度上半期(4月1日～9月30日)の予算の執行状況をお知らせします。

平成28年度一般会計当初予算は、現年度予算59億6,000万円です。2回の補正で62億4,130万9千円になりました。この他に前年度から繰り越した予算が4億5,347万1千円ありますので、総額66億9,478万円となっています。

◆一般会計(歳入)

(単位:円、%)

款	款名称	予算額	収入済額	収入率
1	町税	897,044,000	495,288,188	55.21
2	地方譲与税	55,000,000	17,161,000	31.20
3	利子割交付金	400,000	141,000	35.25
4	配当割交付金	500,000	366,000	73.20
5	株式等譲渡所得割交付金	200,000	0	0.00
6	地方消費税交付金	76,000,000	43,659,000	57.45
7	自動車取得税交付金	9,000,000	3,160,000	35.11
8	地方特例交付金	781,000	781,000	100.00
9	地方交付税	2,439,846,000	1,770,122,000	72.55
10	交通安全対策特別交付金	800,000	407,000	50.88
11	分担金及び負担金	18,398,000	7,467,650	40.59
12	使用料及び手数料	34,803,000	17,502,663	50.29
13	国庫支出金	328,822,000	108,498,645	33.00
14	県支出金	565,829,000	29,471,855	5.21
15	財産収入	34,161,000	19,369,247	56.70
16	寄附金	8,001,000	3,874,417	48.42
17	繰入金	971,430,000	33,000,000	3.40
18	繰越金	276,672,000	276,672,673	100.00
19	諸収入	66,793,000	10,301,504	15.42
20	町債	910,300,000	0	0.00
合計		6,694,780,000	2,837,243,842	42.38

◆一般会計(歳出)

(単位:円、%)

款	款名称	予算額	支出済額		執行率
			支出済額	執行率	
1	議会費	74,613,000	37,929,362	50.83	
2	総務費	1,613,871,000	701,336,294	43.46	
3	民生費	805,647,000	232,044,844	28.80	
4	衛生費	450,059,000	127,775,069	28.39	
5	労働費	2,513,000	0	0.00	
6	農林水産業費	599,785,000	99,143,143	16.53	
7	商工費	410,533,000	175,437,157	42.73	
8	土木費	732,706,000	172,603,419	23.56	
9	消防費	227,506,000	146,376,905	64.34	
10	教育費	939,419,000	397,870,541	42.35	
11	災害復旧費	305,376,000	104,225,992	34.13	
12	公債費	465,641,000	271,457,298	58.30	
13	予備費	67,111,000	0	0.00	
合計		6,694,780,000	2,466,200,024	36.84	

◆特別会計

(単位:円、%)

会計名	予算額	歳入		歳出		
		収入済額	収入率	支出済額	執行率	
1	国民健康保険事業	577,319,000	207,476,919	35.94	254,295,966	44.05
2	国民健康保険施設	448,416,000	77,617,095	17.31	174,495,900	38.91
3	後期高齢者医療	133,001,000	14,227,085	10.70	48,606,274	36.55
4	介護保険事業	776,931,000	342,147,731	44.04	286,872,886	36.92
5	介護老人保健施設	263,479,000	70,022,510	26.58	130,927,864	49.69
6	訪問看護ステーション	16,000,000	424,120	2.65	5,534,916	34.59
7	地域包括支援センター	10,200,000	1,041,300	10.21	4,724,782	46.32
8	簡易水道	333,744,000	29,770,779	8.92	128,747,590	38.58
9	観光施設事業	40,000,000	0	0.00	9,629,802	24.07
10	交流施設	61,024,000	0	0.00	35,451,421	58.09
11	集落排水事業	312,439,000	43,074,418	13.79	108,316,553	34.67
12	朝日財産区	15,000,000	10,765,678	71.77	117,500	0.78
合計		2,987,553,000	796,567,635	26.66	1,187,721,454	39.76

歳入のうち地方交付税を平成27年度と比較してみますと、普通交付税(7月に交付額算定)が23億5,454万6千円となり、前年度対比2,621万円の減、特別交付税(平成29年3月に交付額決定)については、例年度並みの交付を見込んでおります。(※地方交付税は、「普通交付税」と「特別交付税」に分かれています。)

主な事業内容は、只見振興センター新築事業(6億5,444万円)、JR只見線全線再開通事業(8,372万円)、地方創生加速

化交付金事業(8,000万円)、自然首都只見地域づくり事業(2,783万円)、地域おこし協力隊推進事業(2,407万円)、只見やか発育・発達支援事業(3,000万円)、稲作担い手農家生産基盤整備支援事業(2,000万円)、宿泊・飲食事業持続化創業支援事業(4,675万円)、道路橋梁長寿命化事業(1,825万円)、除雪機械更新事業

3,000万円、町営住宅長寿命化整備事業(4,730万円)、奥会津学習センター整備事業(3億7,752万円)などです。

歳入の収入済額は9月までに実際に収入となった金額で、歳出の支出済額は実際に支出した金額です。

これは、只見町財政状況等の公表に関する条例による公表です。

菅家三雄氏に当選証書

任期満了に伴う只見町長選挙は、現職の目黒吉久氏（64）＝2期＝が9月に今期限りでの退任を表明した中行われました。

11月15日の立候補受付では、元只見町副町長などを経験された菅家三雄（70）氏のほかに立候補の届け出はなく、菅家氏が無投票で初当選を果たしました。只見町長選挙で無投票になるのは平成16年以来的の12年ぶりのことです。

初当選を果たした菅家氏への当選証書付与式は11月21日、町役場で行われ、町選挙管理委員会の横山英彦委員



▲横山委員長から当選証書を受ける菅家氏(右)



▲初当選を果たした菅家三雄氏

長は「町のさまざまな課題克服のためにご活躍ください」と挨拶され、菅家氏に当選証書が手渡されました。

任期は平成28年12月16日から平成32年12月15日までの4年で、初登庁は12月16日の午前8時30分の予定です。

【菅家氏の略歴】

只見町生まれで只見高校卒。昭和47年から町職員として勤務され、平成13年から総務課長、平成17年から町助役、平成19年から副町長を歴任されました。

只見町駅伝チーム総合42位

11月20日、「第28回ふくしま駅伝競走大会」が開催され、白河市のしらかわカタルルススポーツパーク（白河市総合運動公園）陸上競技場から福島市の県庁前までの16区間、95・1キロで繰り広げられました。

今年の只見町代表チームは、中学生や高校生が中心のフレッシュなメンバー構成で、昨年順位より上位を目標に大会に臨みました。



▲(写真/ゴール県庁前)大会に参加した只見町駅伝チームの皆さん

結果は総合42位、町の部22位の5時間53分27秒で、残念ながら目標にしていた昨年順位（昨年・総合41位、町の部21位）より上位を達成することができませんでしたが、選手全員が町の代表選手として力走を披露してくれました。

9月から練習に励んだ選手の皆さん、そして選手をサポートして頂いたチームやご家族の皆さん本当にお疲れさまでした。

今年の経験を糧に、更に強くなった来年の只見町代表チームに期待です。



▲力走を見せる6区の梁取水選手(左前)

トレーラーハウスを活用した 創業・起業支援説明会を開催

健康スポーツによる交流環境整備と創業・就業機会に資する賑わい創出事業として、創業・起業チャレンジ応援プログラムの講演会と事業説明会が11月27日、季の郷湯ら里で行われ、事業に関心を持った約20名の方が参加しました。

これは、国の地方創生交付金事業により亀岡農村公園エリアにサンドバレー競技施設とトレーラーハウスを設置して、スポーツによる新たな起業や交流の場を創出するというものです。

講演会ではトレーラーハウスを展開する(株)カンバーランド・ジャパン代表の原田英世氏による講話と、町担当者からの事業説明が行われ、来場者は熱心に耳を傾けていました。



▲当日は、湯ら里駐車場においてトレーラーハウスの内覧会が行われ、飲食や物販としての利用や可動式であるなどの説明が行われました

只見町産シャクヤク 漢方薬として医療に活用

漢方薬の原料となるシャクヤクの生産団体「クラウドウ只見」が11月3日、新屋敷の畑でシャクヤクの根の収穫作業を行いました。

クラウドウ只見は、薬草栽培に関心を持った町民などで組織され、平成24年に新屋敷の休耕地でシャクヤクの試験栽培を開始しました。昨年初めて2・9トンを取穫し、漢方薬メーカーで調べた結果、漢方薬の原料として十分な品質だったことが分かり、収穫2回目を迎えたこの日、県立医大会津医療センターの三浦忠道教授は「原料の地産地消を目指す、町の取組みに注目している」と話し、今年収穫したシャクヤクは漢方薬メーカーを通して、同センターで全量引き取る予定になっています。



▲(写真/11月3日の収穫)漢方薬原料の大半は中国からの輸入の為、安全性の高い国内での安定供給が求められている

三遊亭鳳楽師匠 小川サロンと湯ら里で寄席開催

今年で来町11年目を迎えた、三遊亭鳳楽師匠の寄席が、小川集会所と季の郷湯ら里で行われました。

11月4日、小川サロンの寄席では集落の方々約50名が参加し、大晦日の夫婦の情景を描いた「尻餅」という落語が披露されました。会場は終始笑いが飛び交い、寄席の最後には、集落の方々から感謝の言葉とプレゼントが鳳楽師匠に渡されました。鳳楽師匠は「皆さんに笑いと健康を届けられたと思います。」と話し、夜には地域の方々との交流会が行われました。

また5日に行われた第11回湯ら里寄席では、鳳楽師匠の卓越した話芸で来場者約130名を魅了し、笑いで只見町に貢献されました。



▲(写真/5日の湯ら里寄席)11年間只見との交流を続け「地域の方々との交流で逆に癒されています」と話す鳳楽師匠

只見町消防団が訓練指導 只見高校「防火・防災避難訓練」

11月4日、只見高校で本年度2回目となる「防火・防災避難訓練」が行われ、只見町消防団約10名が訓練の指導にあたりました。

避難訓練後、グラウンドで行われた放水訓練では、消防団指導の下、各学年の生徒代表が消防ポンプ車と消火栓からの放水を体験しました。生徒達は消防団から、放水の伝令やホースの筒先の持ち方などを教わり、ホースの水圧に驚いていました。

その後体育館で行われた目黒邦友消防団長の講話では、「消防団の活動を知ってもらい、是非入団して下さい」と消防団の紹介や避難訓練の講習を話されました。生徒達にとって消防団の活動にふれる良い機会となりました。



▲消防団員から放水指導を受ける生徒

森林の分校ふざわの未来を考える

地域住民と活性化ワークショップ

「森林の分校ふざわ」のこれからの持続発展的な活用についてワークショップが11月23日に森林の分校ふざわで開かれ、布沢住民や関係者など22名が参加しました。

最初に現在施設を管理している森林の里応援団の齋藤政信支配人の発表が行われ、運営に関する内容などが説明されました。その後ワークショップが行われ、地域住民や町関係者など各々の視点で施設の魅力や課題、解決策など意見を述べました。結果、課題は布沢地区の人材不足や若い世代への継承などが挙げられ、地域と行政が課題を共有し、次年度以降の持続発展した管理運営に活かします。



▲町のシンボリック存在の「森林の分校ふざわ」の存続の為に、参加者全員で前向きな話し合いがされました

元気な歌声に迫力の演奏

第54回只見町小中学校音楽祭

11月9日、只見中学校体育館で「第54回只見町小中学校音楽祭」が行われ、保護者や地域の方々など約1000名が来場しました。

音楽祭では、各小学校の児童3〜4年（只見小は2〜4年）生が合唱と合奏を披露し、只見中学校は、のぞみ学級による和楽器奏や特設合唱部による合唱、全校生徒による合唱が披露されました。元気に楽しく歌う小学生、迫力ある演奏で楽器を奏でる合奏、そして清らかで美しい歌声が響き渡った中学生の合唱、いずれも完成度の高い合唱と合奏の連続に、来場者から「子ども達の発表に感動しました」という言葉とともに、大きな拍手が送られました。



▲歌、手拍子、ピアノが見事に調和した朝日小学校の合唱「RPG」

平成28年度秋季全国火災予防運動

秋の防火パレードを実施

秋季全国火災予防運動が11月9日〜15日まで実施され、それに伴い9日に、只見町消防団や広域消防署只見出張所などによる「秋の防火パレード」が行われました。

防火パレードでは、消防車両による広報活動が行われ、明和振興センターから町内各地を回りました。途中明和保育所を訪問し、子ども達に防火についての講話と風船をプレゼントしました。火災が発生しやすい時季となりましたので、火災予防のご協力をお願いします。

「消防署からのお知らせ」
住宅火災から命を守るため「住宅用火災報知器」を設置しましょう。



▲明和保育所で防火をお願いする目黒消防団長

今年はお米とブルーベリー

只見町と柏市で学校給食食材を交換

只見町と千葉県柏市の主要農産物の交換食材交流事業は、風評被害の払拭や両市町の食育の推進を目的に行われており今年で5回目となりました。

今年度は「只見産コシヒカリ60kg」と「柏ブルーベリー9kg」を交換し、只見町では11月22日、町内の小・中学校の学校給食で、柏ブルーベリーを「ジャム」にしていたいただきました。また柏市では、柏市立柏第八小学校の学校給食で、只見産コシヒカリが提供されました。

なお、交換食材は、放射性物質検査で安全性が確認されたものを使用しています。



▲(写真/只見小学校) 柏市のブルーベリージャムをみんなで美味しくいただきました



只見線の活用と沿線活性化を探る
只見線活性化シンポジウム

11月6日、只見線の活用方法と沿線活性化を考える「只見線活性化シンポジウム」(だんだんどくも只見線沿線元気会議主催)が、新潟県魚沼市地域振興センターで開催され、只見町や魚沼市などから約120名が参加しました。

シンポジウムでは、魚沼市の只見線なんとか会の目黒公司さんによる「只見線が担ってきた役割と今後の展望」について講演が行われ、只見線の経過や現状など話されました。

その後「ふるさと列車只見線く活躍の場をみんなで創ろう」をテーマにパネルディスカッションが行われ、只見町から民宿只見荘の目黒ゆかりさんがパネラーとして参加し、只見線の復旧や沿線活性化に向け意見交換が行われました。



▲パネルディスカッションは魚沼市観光協会の三友泰彦会長がコーディネーターを務め、只見町や魚沼市から6名がパネラーとして参加し行われました

只見振興センター新築事業
上棟式と餅まきで安全祈願

現在新築工事を行っている只見振興センターの基本構造が完成し棟木を上げる時に行われる「上棟式」が11月10日、現地で行われ、関係者など約15名が参加しました。

上棟式では、棟梁による祝詞奏上や四方祓いの儀などが行われ、目黒町長が「立派な只見振興センターが安全に完成することを願います」と挨拶をしました。

その後只見小学生や地域住民など約150名が参列した会場に、紅白餅や五円玉がまかれました。

只見振興センター建設工事の安全を、関係者と参列者が共に祈願した一日でした。



▲多くの地域住民が参列した餅まき

元パラリンピック日本代表秋元先生
明和小学校で「心の授業」を開催

11月11日、ただみコミュニケーションクラブ主催の「アスリート夢先生く心の授業」が明和小学校で行われ、小学生や地域の方々など約90名が参加しました。今回は、ボッチャ競技(ヨーロッパで考案された球技)でロンドンパラリンピックに出場され7位入賞を果たした元日本代表選手「秋元妙美」さんを講師に迎え、講演や競技体験を行いました。

講演では障がいにより苦労したこと、大学時代にボッチャ競技と出会い努力して五輪出場の夢が叶ったことなど秋元さんの貴重な体験談が話され、「夢と現実の架け橋は努力」「人と比べるのではなく自分で考え進むこと」と子ども達に大切な言葉を贈りました。



▲ボッチャ競技で交流をする秋元先生と明和小学校の子ども達

関係機関連携でいじめ防止対策
「いじめ問題対策連絡協議会」開催

いじめ防止対策推進法が施行されたことに伴い、教育委員会では「只見町いじめ問題対策連絡協議会」を設置し、関係機関の連携強化と連絡調整を目的に第1回の会議が11月15日、只見振興センターで行われました。

会議では町が定めた「只見町いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止の考え方や重大事態への対応などの説明があった後、町内の小・中学校から定期的にアンケート調査を行い、実態把握に努めることなどの取組み事例の報告がありました。

教育委員会では今後も定期的に会議を開き、いじめ防止対策の強化に努めていきます。



▲委員11名が出席した会議では活発な意見交換が行われました

町内各保育所でおゆうぎ会

11月、3地区の保育所でおゆうぎ会が行われ、この日を楽しみにしていた保護者の方などでホールはいっぱいになりました。子ども達はこの日の為に、練習してきた歌や踊り・劇を一生懸命に披露し、訪れた保護者の皆さんを喜ばせていました。



いもごぼし(11月17日 明和保育所)



からすのパンやさん(11月18日 朝日保育所)



にじいろ(11月22日 只見保育所)



▲多くの来場者で賑わう会場

▶抽選会で、目黒支配人(湯ら里)から宿泊券を受け取る来場者



湯ら里「第24回只見新そばまつり」開催

11月12日、季の郷湯ら里で「只見新そばまつり」が行われ、町内外から約120名が新そばを味わいました。

新そばまつりでは、冷たい盛りそば、温かい田舎そば、天ぷら、漬物などが食べ放題で、来場者からは「美味しくて来て良かったです」という声が聞こえました。その他、只見産コシヒカリの新米がプレゼントされ、湯ら里宿泊券や新そばなどが当たる抽選会も行われ、心のこもったおもてなしに来場者は満足した様子でした。

第34回ふるさと演芸会

11月23日、ふるさと演芸会実行委員会主催の「第34回ふるさと演芸会」が朝日振興センターで行われ、地域の方々など約70名が来場しました。

開会式で尾形伸以実行委員長は「皆様のおかげで34回目が迎えられました。来年の節目の年を目指し今後も取り組んでまいります」と挨拶されました。

その後演芸会が始まり、日本舞踊愛好会や三つ葉会、ひよっこクラブの皆さんによる30の演目が披露され、華麗な踊りに来場者から大きな拍手が送られていました。



▶小学生から大人まで華麗な舞を披露しました



只見町ブナセンター

ブナセンター講座

10月22日(土)

「会津地方のカエル・サンショウウオ類とその生態」

両生類・爬虫類の専門家で、2014年に新種のタダミハコネサンショウウオを発見した吉川夏彦氏(国立科学博物館)を講師に招き、ブナセンター講座を開催しました。

会津地方に生息する両生類(サンショウウオ類<有尾類>・カエル類<無尾類>)について写真と標本、録音された鳴き声(カエルのみ)を交えて詳しく説明いただきました。会津地方には、有尾類が6種、無尾類は在来種11種・外来種1種の合計12種が確認され、町内では有尾類はバンダイハコネサンショウウオを除く5種、無尾類はニホンアカガエル・トウキョウダルマガエル・ウシガエルを除く9種が確認されているとのこと。このように只見町に多くの両生類が生息しているのは、町内の自然環境の自然度が高く、多様な環境があるためと考えられるそうです。

今回の講座には、26名の方が参加され、只見町の両生類の地域的な生物多様性の高さを教えてもらうとともに、そうした生物の生息を支える豊かな自然環境を保全していく必要性を認識できました。



▲講座の様子



自然観察会

10月23日(日)

「秋のブナ林と水辺の生き物を観察しよう」



▲サンショウウオを手で解説をする吉川氏

紅葉が見頃となった布沢の「恵みの森」で観察会を開催しました。恵みの森を流れる大滝沢沿いに設置されたトレッキングコースを歩き、その周囲に生育するブナ他、トチノキやサワグルミなどの水辺林の樹木を観察しました。観察会には、町内外合わせて20人の参加者があり、前日のブナセンター講座の講師の吉川夏彦氏にも同行いただき、コース沿いで発見した両生類について解説をしていただきました。

参加者と一緒に石を裏返すとハコネサンショウウオの幼生を見つけることができました。吉川氏から、ハコネサンショウウオは流水域に生息し、水に流されないように指に爪があることや背中に黄土色の斑紋があること等の特徴の説明がありました。また、タゴガエルも見つけることもでき、タゴガエルはのどに小さな黒点が密にあること、背中の両側の筋がまっすぐなことで姿の似ているヤマアカガエルと見分けられることを教えていただきました。恵みの森を訪れたことのある参加者の方から、サンショウウオがいることは知らなかったという声もありました。今回の観察会は、紅葉だけでなく、水辺に生息する小さな生き物の生態について知ってもらう良い機会になりました。

11月から新しい看護師さんが着任しました!

11月1日から2月28日まで朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の浅沼 巧さんです。会津若松市内の「仁愛高等学校」卒業後、会津中央病院の救命救急センターに勤務され、現在2年目です。浅沼さんは、「10年ぶりのスノーボードに挑戦したい」と只見の冬を楽しみにしています。「只見町で患者さんやそのご家族の方々と寄り添った看護ができるよう頑張りたい」と話してくれた爽やかな笑顔の浅沼さんをどうぞ宜しくお願いします。



浅沼 巧さん(出身/会津美里町)
学生時代は、バレー部の他に、駅伝や陸上をやっていたスポーツマンです!

広報ただみ診療所

朝日診療所
医師 渡邊 孝一郎



「便秘について」

こんにちは。朝日診療所に着任して、はや半年が経過しました。冬タイヤに交換しましたが、いつ雪が降ってくるかビクビクしている毎日です。気温も下がってきましたので、体調管理、血圧の上昇には気をつけましょう。

さて、最近便秘のご相談が増えてきたように感じます。便秘の原因には食生活や生活習慣、ストレス、腫瘍性病変や手術後、薬剤性(精神安定剤など)などがあります。意外な所では糖尿病も便秘の原因です。吐気や腹痛などがなければ、2日程度の便秘は特に問題ないと言われています。

この時期に多い原因としては、水分摂取の低下があります。寒いと喉の渴きを感じにくく、水分摂取量が減少してしまいがちです。腸管での水分の再吸収が起こり、便が固くなって便秘になることがあります。夏場でなくても、水分はこまめに取るようにしましょう。

最近テレビで刺激性下剤と非刺激性下剤のCMをやっていますね。

・刺激性下剤(プルゼニド、センノシド、アローゼン、ラキソベロンなど):腸を刺激して排便を促す。習慣性があり、連日の服用では効果が弱くなってしまいます。日をあけるなどの工夫が必要。便は柔らかいが便秘の人に。

・非刺激性下剤(酸化マグネシウム、マグミット、アミティーザなど):便の水分を増やし、便を柔らかくすることで便を出しやすくする。便がコロコロで、排便時にお尻が痛いような人。

CMでは酸化マグネシウムは安全で子供でも使えると謳っていますが、高齢者や腎臓の機能が悪い方では高マグネシウム血症という副作用が出るがあるので、注意が必要です。朝日診療所では治療として浣腸も行っています。ある程度の年齢の方で、急に便が細くなったりしたら、大腸内視鏡検査をおすすめしています。まとめですが、①冬場であっても水分摂取は必要です。②便の状態に合わせた下剤の使い方があります。③たかが便秘と侮らず、検査をおすすめすることがあります。便秘でお困りの方は、自分の便の状態をご確認くださいね。

地域おこし協力隊として vol.25

只見観光振興協力隊
山科 麻伊



「無料休憩所の取り組みについて」

10月の末、只見にイベント列車がやってきました。その「おもてなし企画」の担当になった私。どういったおもてなしをするか、同僚と話し合っているときにこんな話が出てきました。「只見の自然をもっと気軽に、短時間でも感じる事が出来たらいいね」、「確かに、時間のない人やちょっと立ち寄った人にも、一息つける場所があれば…」、そういった思いが元となり、イベント列車の2日間限定ではありましたが、多くの方々の協力により「無料休憩所」が実現しました。

休憩所では、スノーピークの焚火台やタープ、ゆっ

たりと座れる椅子などを用意しました。秋のさわやかな風、枯葉の香り。そして目の前に広がる山々を見て、「今度はゆっくり来たいな」と言って下さる方もいらっしやいました。もし常設の休憩所があれば、「只見の魅力的な施設や飲食店に寄った後、少しの時間くつろぐ」「長距離ドライブの休憩に、少し立ち寄る」など、様々な使い方ができるかと思います。

次回も機会があれば実施し、「ちょっとの」時間であっても、只見の自然の良さを知っていただける場所を提供したいと思っています。

町史

とっておきの話

269

只見町総合政策課

中野 陽介

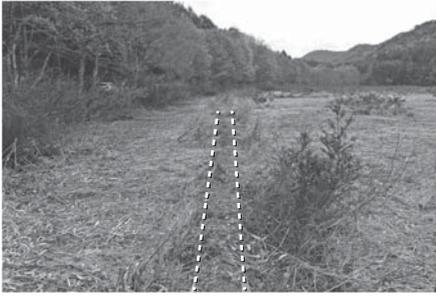
只見ユネスコエコパークがめざすもの②

―只見の自然環境を守る(1)―

ユネスコエコパークの事業

ユネスコエコパークは「人と自然との共生」を実現するためのものです。そのために、①自然

を守る、②地域資源を絶やさず活かしながら地域社会を発展させる、③それらを達成するために学術調査と研究をすすめる材を育成しようとしています。只見町では、ユネスコエコパークの精神にのっとり、「豪雪に育まれた自然環境と生活・文化を守る



▲木道が湿原と一体となってしまった大曾根湿原(点線部分が木道)



▲湿原入口部分の木道を撤去した大曾根湿原

り活かす」ため、さまざまな事業を行っています。今回は、自然を守る取組みについてご紹介します。

大曾根湿原の保護と保全

大曾根湿原は、梁取地区大曾根山の麓に位置する約二・五haの高層湿原で、町指定の天然記念物です。湿原は、水域と陸地の接点であることから多様な動植物の生息・生育地となるとともに、特有の環境に依

存した動植物が存在しています。そのため生物多様性の保全の上で重要な生態系と言われます。事実、大曾根湿原も湿原環境に依存する貴重な動植物が生息・生育しており、町の生物多様性にとって大きな役割を果たしています。一方、大曾根

湿原内には、かつてその保全と観察の便を図るため木道が敷設されていました。しかし、現在、その木道も年月を経て腐朽あるいは湿原に埋没する状況にありました。これでは木道の役割を果さないばかりか、かえって人を湿原内に踏み込みやすくさせ、悪影響を及ぼす危険性ははらんでいました。さらに木道が湿原内の水の流れをさえぎり、湿原の一部が乾燥し、湿原植生が減退している様子も観察されました。こうしたことから大曾根湿原の保護と保全を図るべく、湿原に入る入口部分の

木道を撤去して湿原内に人が入り込むことができないようにしました。湿原内には一部の木道が残っていますが、すべてを撤去すると、かえって湿原にダメージを与えてしまう可能性があるもので、入口部分のみにとどめました。さらに、湿原内に残る木道は、スリット加工を施し、水の流れを促すようにしました。また、梁取地区の方々にご協力いただいて湿原を周遊できる遊歩道を整備することができました。

巨樹・巨木の保全

巨樹・巨木の存在は、その地域の自然度の高さを示す指標です。また、教育や観光(エコツーリズム、グリーンツーリズム)の中で利用できる資源にもなり、保護・保全すべき対象です。只見町には集落の周辺に巨樹・巨木が多数ありますが、その中に黒沢地区の牧ノ平にあるあがりこ型樹形のコナラ巨木群があります。あがりこ型樹形とは、かつて薪材生産を目的とした雪上伐採と萌芽再生を繰り返した結果でできた樹形です。コナラのあがりこ型樹形は全国



▲黒沢地区のあがりこコナラ巨木群

的にも珍しいものです。そのうえ独特の樹形をもった巨木群は魅力的です。それは只見町の人々の生活と森林の関わりを今に伝える貴重な文化遺産とも言えます。しかし、近年、ナラ枯れの影響を受け、その一部が枯死する被害がでています。ナラ枯れはカシノナガキイムシという体長五㎞ほどの昆虫が運ぶナラ菌によって引き起こされます。そこで、ナラ枯れの影響からあがりこコナラを保全するため、健全なあがりこコナラの木の根元にドリルで穴を開け、注射器で殺菌剤を注入しました。二〇一五年は約九〇本のあがりこコナラに薬剤を注入し、その多くがナラ枯れの影響を回避できました。ただし、薬剤の効力は二年間であるため、継続した保全措置が必要で



町民文芸

只見短歌会

十月詠草

大塚栄一

指導

体調に合はせて夫が慎ましく培ふ庭の花咲き揃ふ

古川 英子

真向ひの雑木林にこれ程も栗の木あるかと実入りて驚く

馬場 八智

名もしらぬ茸を食し何事もなきを確かめ旨みを知りぬ

小倉キミ子

久々に電車に乗れば乗客ら皆俯きてスマホに向かふ

新国由紀子

車窓より朝日に映ゆる紅葉の山並眺め診察に通ふ

関谷登美子

長雨の続きといづこも難儀せしコンバインの跡深く残れり

渡部ゆき子

くすぐれば孫の反応想像し浮き立つ思ひにねこじゃらし摘む

目黒 富子

毎日のことなれど気候の変化には惑はされテレビの予報見てゆく

渡部ヨリ子

こぶし苑に三日入所し傍らの姉との食事いつもより長し

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

十一月例会

目黒十一

指導

手に触れる越後上布や実南天

恒 夫

紅葉散る峠ここより六十里

冬麗半眼の猫まめを打つ

吉 児

一袋リンゴの里のリンゴ買う

礼

出来具合などを言い合い牛蒡掘る

信濃路や何処まで行くんだ赤蜻蛉

信

二時間の車窓の景や風邪ごこち

順 子

頬赤く仕舞われてゆく紫山子かな

都

台風一過紺碧の蒲生岳

修 一

新蕈のゆるく積まるる考古館

秋うらら日向の向うひんやりと

渓谷の紅葉半分切る夕日

そぞろ寒入院セット入れ替える

味代子

この陽射し三日ぶりなり豆稲架

一 穂

妻語る葱の白さの苦労かな

日に二度の列車到着紅葉す

初氷バリバリバリと通勤車

小春日や園児の踊る白虎隊

今月のお知らせ

電話番号

総合政策課 地域振興係 財政係	☎ 82-5220
総務課 総務係 職員係	☎ 82-5210
町民生活課 税務係 係	☎ 82-5110
町民係	☎ 82-5100
保健福祉課 保健係 係	☎ 84-7005
福祉係	☎ 84-7010
農林振興課 農政係 林政係	☎ 82-5230
観光工商課 観光係 商工係	☎ 82-5240
環境整備課 地域整備係	☎ 82-5270
生活環境係	☎ 82-5280
会計室	☎ 82-5120
議会事務局	☎ 82-5300
農業委員会	☎ 82-5230
教育委員会	☎ 82-5320
学校給食センター	☎ 84-7180
只見保育所	☎ 82-2219
朝日保育所	☎ 84-2038
明和保育所	☎ 86-2249
朝日診療所 (歯科)	☎ 84-2221
訪問看護ステーション	☎ 84-2612
	☎ 84-2130
こぶし苑	☎ 84-2101
只見振興センター	☎ 82-2141
朝日振興センター	☎ 84-2111
明和振興センター	☎ 86-2111

募集

平成29年度
保育所入所児童募集

町では平成29年度の保育所入所児童を次のとおり募集します。

●対象児童

平成29年4月1日現在で満1歳以上の児童で、保護者の就労等により保育を必要とする児童

●募集定員

- ・只見保育所 60名
- ・朝日保育所 60名
- ・明和保育所 60名

●申込み受付期間

平成28年12月1日(木)～
12月28日(水)まで

●受付場所

- ・只見保育所
- ・朝日保育所
- ・明和保育所

・明和保育所 (☎ 84-2036)

・役場窓口 (☎ 86-2249)

・保健福祉センター (☎ 82-5100)

・朝日振興センター (☎ 84-7010)

・明和振興センター (☎ 84-2111)

●申込書類(受付場所)に有
・支給認定申請書兼保育所入所申込書(新規入所の場合)

・支給認定現況届兼継続入所申込書(継続入所の場合)

・保育を必要とする事由の証明書

▽入所の承諾は、2月中旬に文書で通知します。

▽定員以上の申込みがあった場合は、選考基準によって選考します。

●お問合せ先

保健福祉課福祉係 (☎ 84-7010)

農業者をめざす
奨学生を募集します

町では、将来只見町で農業に従事するため農業後継者育成のための学校に在学する方に対し、その修学に必要な資金の一部を貸与します。希望者は、お問い合わせください。

●対象者

福島県農業総合センター農業短期大学校、公益財団法人農林教育協会鯉淵学園農業栄養専門学校に在学している方。

※進学予定者も受付けます。

※国または他の団体から同種の奨学資金の貸与等を受けていないことが条件となります。

●貸与額

月額 10万円以内

●返還及び免除規定

学校を退学した場合や卒業後に農業に従事しない場合は返還義務が生じます。ただし、卒業後直ちに町内において農業に従事し、その後10年以上農業に従事した場合は返還が免除されます。

●申請方法

奨学資金貸与申請書及び奨学生願書に、住民票、履歴書、健康診断書並びに申請者が在学する学校長が発行した入学以後の学業成績表、学業・人物に対する所見を記載した推薦書を添付し、農林振興課に提出してください。

※申請用紙を希望される方は農林振興課農政係までご連絡ください。

●募集期限

平成29年2月20日(月)必着

●お問合せ先

農林振興課農政係

税 今月の納期

12月26日までに
納めましょう

- 国民健康保険税(6期)
- 後期高齢者保険料(5期)
- 介護保険料(6期)
- 水道使用料(3期)
- 農集排使用料(12月分)

☎ 0244(82)5230

放送大学より
4月生募集のお知らせ

放送大学では平成29年度第1学期(4月入学)の学生を募集中です。

放送大学はテレビ等、ラジオ、インターネットを通して学ぶ通信制の大学です。

心理・教育・福祉・経済・歴史・文学・情報・自然科学など幅広い分野を学べます。

●出願期間

第1回 2月28日まで
第2回 3月20日まで

●資料請求・お問合せ先

放送大学福島学習センター
☎ 024(921)7471
▽放送大学ホームページでも受け付けております。
▽資料は無料で差し上げられます。

「風とロックCARAVAN福島～只見町」

県内 59 市町村でふる里の魅力を公開生放送する「風とロックCARAVAN福島」は 11 月 26 日、町民体育館で開催され、町内外から約 300 名が来場しました。

トークショーでは、郡山市出身のクリエイティブディレクター 箭内道彦さんが司会で、町内から(株)ライズサプールの目黒大輔さん、クラウドゥ只見の渡部和子さん、地域おこし協力隊の山科麻依さんが出演し、町の魅力などを紹介しました。その後ライブでは、「風とロック芋煮会 2016」のアコワン・グランプリで優勝した只見高校 1 年の大竹涼華さんや、柴田淳さん、ひとりぼっち秀吉 BAND、ふたりの CARAVAN ズが熱唱し、会場を盛り上げました。



◀ ブナりんも登場し、町民の皆さんと一緒にPRしたトークショー

▶ プロのミュージシャンや300名を越える来場者の前で新曲「想い」を堂々披露した大竹涼華さん



あおば
三瓶 青葉くん(樫戸)

まこ
渡辺 真子さん(小林)

ゆわ
渡部 結羽さん(只見)

みれい
渡部 美礼さん(大倉)

ゆうと
横田 悠和くん(大倉)

虫歯のない子

(11月8日
3歳児健診)

町長スケジュール

(11月分)

- | | | | |
|-----|--|-----|--|
| 1日 | 三条市、長岡国道事務所ほか表敬訪問、国道289号八十里越視察(三条市・長岡市) | 15日 | 福島県森林林業緑化協会専務来庁、福島財務事務所長来庁、ふくしま駅伝只見町チーム結団式 |
| 2日 | ふるさと館田子倉開館記念式典、観光まちづくり協会理事会 | 16日 | 全国町村長大会(東京) |
| 3日 | 只見町文化祭 | 17日 | 全国山村振興連盟通常総会(東京)、国保制度改善強化全国大会・陳情行動(東京) |
| 4日 | 福島県医療人材対策室・福島県立医大表敬訪問(福島市) | 18日 | 簡易水道整備促進全国大会(東京)、福島県知事・副知事表敬訪問(福島市) |
| 6日 | 只見線活性化シンポジウム(魚沼市) | 19日 | 日本再発見塾in奥会津・只見線全体フォーラム(金山町) |
| 7日 | 住田光学ガラス(株)(南会津町)、(株)栃木ニコン、ティーエヌアイ工業(株)表敬訪問(大田原市) | 22日 | 除雪会議、八十里越道路打合せ |
| 8日 | 柏市役所表ほか敬訪問(柏市)、ダム・発電関係市町村全国協議会理事会・勉強会(東京) | 24日 | 職員労働組合交渉、東邦銀行業況説明会(会津若松市) |
| 9日 | JR只見線全線復旧を求める国会議員要望活動(東京) | 25日 | エコパーク連絡調整会議 |
| 10日 | 職員採用候補者第2次試験、只見振興センター上棟式 | 27日 | 只見線復興推進会議検討会(会津若松市) |
| 11日 | 全国雪対策連絡協議会要望活動、会津赤べこ会(東京) | 28日 | 故河野昭一氏弔問(埼玉県三芳町) |
| 12日 | まるごと南会津観光PRフェアセレモニー(東京) | 29日 | 只見町戦没者慰霊祭、只見町・金山町・昭和村消防相互応援協定情報交換会、会津地区国有林野等所在地元市町村長有志協議会(会津若松市) |
| 13日 | 土地改良区上福井、黒谷権利者総会 | 30日 | 12月補正予算査定、区長連絡協議会懇親会 |
| 14日 | 会津ただみ振興公社取締役会、会計検査、湯らり取締役会 | | |

町民の消息

(10月26日～11月25日届出分)敬称略

■ご結婚おめでとうございます

二軒在家 一条 英昭♡菊地 陽奈 矢祭町

■おくやみ申し上げます

山 中 富 久	100歳	長 浜
鈴 木 キ ヲ	73歳	長 浜
小 林 要 樹	65歳	布 沢
船 木 待 雄	74歳	只 見
目 黒 米次郎	74歳	只 見

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成28年11月1日現在

人 口 4, 392 (- 8)
 男 2, 154 (- 1)
 女 2, 238 (- 7)
 世帯数 1, 807 (- 9)
 高齢化率 44.80%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 7 転出 9 出生 2 死亡 8



▲立川流の落語家 立川こしらさん

▽11月は、町内で寄席（落語）が多い月となりました。小川サロンや湯ら里で寄席を開いた「三遊亭鳳楽」さん、そして11月12日に旅館みな川で寄席を開いた「立川こしら」さん。どの寄席も多くの皆さんが来場し落語を楽しんでいました。只見町に落語という笑いが浸透していると感じました。

あとがき

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

町民憲章

只見振興センター
三瓶美由紀

只見振興センター
図書室 ☎82-2141

おすすめ新着図書

★コンビニ人間

コンビニ人間 村田沙耶香



村田沙耶香/著(文藝春秋)

36歳未婚女性、古倉恵子。大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトは18年目。これまで彼女なし。日々食べるのはコンビニ食、夢の中でもコンビニのレジを打ち、清潔なコンビニの風景と「いらっしゃいませ!」の掛け声が、毎日の安らかな眠りをもたらしてくれる。ある日、婚活目的の新入り男性、白羽がやってきて、そんなコンビニ的生き方は恥ずかしいと突きつけられるが…。

「普通」とは何か?現代の実存を軽やかに問う衝撃作。第155回芥川賞受賞です。

★ざんねんないきもの事典



今泉 忠明/監修(高橋書店)

思わずだれかに言いたくなる!生き物のオモシロ情報が満載!生き物の「ざんねん」な一面に光をあてた、はじめての本。「紫外線をあびると光る」サソリや、「敵におそわれると死んだふりをする」オポッサムなど、ふしぎな生き物を122種紹介。

子どもはもちろん、大人が読んでも楽しめます。

★その他にも図書室にはたくさんの本が置いてあります。リクエストも随時受付けていますので、ぜひご利用ください。

マタタビ

(学名: *Actinidia polygama*)

[マタタビ科 マタタビ属]



▲花の咲いている時期には葉が白くなる



▲マタタビの花(雄花)6~7月



▲ザル作りの作業風景



▲マタタビのザル

マタタビは北海道から九州にかけて自生するつる性の木本です。花の咲く6~7月頃には葉の表面が白くなります。これは一説によると小さな花に代わって虫を誘引するためといわれています。只見町を含む奥会津地方では、マタタビのつるを使ってザルを作る伝統があります。晩秋にまっすぐな1年生のつるを採ってきて、冬の間の手仕事でザルを作ります。採ってきたつるは乾燥しないように保管し、①樹皮を剥ぐ、②3 または 4 つに割く、③割いた材の内側の髄を削り取る、④幅を合わせるなどの作業を経てひご状にします。網代編み、格子編みなどで底を作り徐々に立ち上げていきザルの形にしていきます。最後に縁をつけて完成します。編みあがったザルは冬場の軒下に吊るして寒ざらしをします。こうすることで、紫外線と雪の漂白作用で白くなり、強度が増し、カビが生えにくくなるそうです。力のいる作業なので昔は男の人の仕事でしたが、最近の編み組み細工の教室には女性が多く参加しています。マタタビで作られた米とぎざるは洗う時に米の粒をつぶさないとされ重宝されます。また、水に強く、水切れも良いという特徴もあります。日本の多くの地域では、タケでザルを作ります。奥会津でマタタビを使うのは、一つには雪が多くタケが少ないことによります。そして、こういった伝統文化が残るのは自分で使うものは自分で作ろうとする気概によるものといえるでしょう。

企画展

「伝統を編む人々~只見町とボルネオ島と」
期 間：2017年2月13日(月)まで開催

詳しくは、
只見町プラセンター
までお問い合わせ
ください